

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「コンビニでも靴が買えます 生き残りへあの手この手」
- 2) 「あきんどスシロー、新業態“ツマミグイ”をオープン」
- 3) 「LINE、新サービス続々と つながる日常多面的に」

1) 「コンビニでも靴が買えます 生き残りへあの手この手」

ローソン神戸市役所西店内に7月末にオープンした女性靴専門店「SimpleStyle（シンプルスタイル）」。このコンビニの主な客層は40-50代の女性。近くに神戸市役所があるため、休み時間には昼食を買いに来る女性職員、夕方には仕事帰りの女性会社員らが立ち寄る。「なんでコンビニの中に靴があるの」と驚くお客さんも多いそうだ。店内の一角はまるでおしゃれなシューズショップの趣なのだ。

オープンから約2カ月が経過し、1日2-3足（3万-4万5千円）の売り上げがあるといい、谷山社長は「優良な立地は確保しづらい上にコストがかかる。消費者にとって身近なコンビニと組むことで、相乗効果が期待できるのではないかとメリットを上げる。

もちろん、ローソン側も相乗効果を見込んでいる。同店の店長は「『店に来るのが楽しみになった』というお客さんが増えていて、店内に活気が出ました」と笑顔だ。神戸はもともと「履き倒れ」と呼ばれる靴の街でもあり、利用者らに受け入れられやすい土壌もあったようだ。

働く女性や一人暮らしの高齢者が増えたことで、コンビニも男性客中心から若い女性やシニア層を意識した店舗作りが求められるようになった。このためローソンは、生鮮食品を充実させた「ナチュラルローソン」を展開したり、デザートや弁当などPB開発したりすることで、他社との差別化を図っているという。

「異業種連携」と言う言葉自体は珍しくなくなったが、業種の組み合わせで毎回驚かされる。「まさかコンビニと〇〇が」と言うインパクトもあるが、こういった店舗が定着したり、撤退したり、新たな業態が生まれたりするのでこれからの動きに注目したい。

2) 「あきんどスシロー、新業態“ツマミグイ”をオープン」

あきんどスシローは、新業態となるカジュアルすしダイニング「ツマミグイ」を2015年1月中旬に東京中目黒にオープンさせ、都内進出の足がかりを模索する。

コンセプトは、すしとビュッフェを組み合わせたもの。回転レーンを置かず、客が自由に取る形式を採用する。提供するすしは一貫100円から350円と幅をもたせ、トロの上にウニをのせるといったカスタマイズも可能。また、これまでのスシローにはなかったワイン、日本酒、焼酎などアルコール類を3つの価格帯で用意し、客単価は昼間1000-1500円、夜3500円前後を想定しているという。

店舗の広さは35坪程度と比較的小型で、空間設計は2007年に『Newsweek』誌の「世界が注目する日本の中小企業100」に選ばれたデザイン会社「nendo」が手がける。

「郊外は出店の余地があと数年で限られてくる」（豊崎社長）という同社にとって、都市部への進出が企業成長する上で欠かせない。とはいえ、地価が高く、坪数の確保が難しい都市部では、一皿100円で統一している「スシロー」では出店が厳しい。そこで新業態「ツマミグイ」の企画が持ち上がったという。「おすしは大人の男性のものというイメージだが、女性が1人でも入れるようなお店にしたい。気楽にちょっとつまむ感覚ですしを食べてほしい」（豊崎社長）とこれまで比較的なじみの薄かった若い女性客への訴求を図っていく。

将来的には大阪、名古屋など東京以外の都市部でのチェーン展開を念頭においた店舗設計や人材配置を計画しているという。

全国的に名の知れた大手チェーンの次の一手というのは必然的に注目が集まるが、「家族連れ・郊外」と「都市部・若い女性」は真逆のイメージにあるので、どのような店になるのかとても興味がある。すしビュッフェというスタイルもあまり聞かないので同じすしでも新鮮味があり、「カスタマイズできる」という点も女性にウケるのではないかと思う。nendoが店舗デザインを手掛けるというのも楽しみだ。

3) 「LINE、新サービス続々と つながる日常多面的に」

無料対話アプリのLINEは飲食宅配やタクシー配車などネットとリアルをつなぐサービスを今秋以降に相次いで始める。対話アプリで急成長したLINEは、スマホ時代の生活のハブになろうとしている。

各種サービスの核となるのが、今冬に導入する決済機能「LINE Pay（ペイ）」だ。対話アプリのアカウントとクレジットカードの情報を連携させ、アプリ上で料金を支払えるようにする。銀行口座やコンビニエンスストアから事前に自身のアカウントに入金して利用することもできる。銀行口座からの入金には三井住友銀行とみずほ銀行と提携する。

まずLINEや提携する他社のネットサービスの支払いに対応する。将来は実店舗でも使えるようにする。

友人らとのコミュニケーションに使うLINEならではの特徴が割り勘機能。購入する商品やサービスの料金を複数人で案分できる。利用者間の送金機能も導入する。対話アプリでつながっていれば相手の銀行口座を知らなくても送金できる。

不正利用を防ぐためのセキュリティー対策も取り入れる。対話アプリとは別のパスワードを設定するほか、iPhoneの指紋認証にも対応する。

今後、ますますスマホの「アプリ」を活用する時代になるだろう。ただ情報を見たりゲームを楽しんだりするだけではなく、LINEが掲げるように生活のハブとなっていくのは間違いないと思う。スーパーでもオリジナルアプリを配布しているところも増えているが、レシピやお買い得情報を提供するだけでなく、買い物自体を便利にするような機能が求められると思う。